

農作業メモ



営農指導課 井口 晶平

水稲

今月は収量や穂肥に関する稲の生態についてまとめました。少し難しいですが、理解しておくことで品種や気候が変化しても応用できます。適切な施肥管理をして、収量増加と品質向上をめざしましょう。

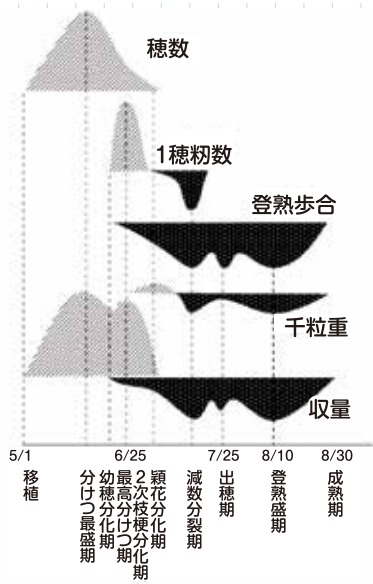
収量構成要素

籾数と登熟歩合は今の時期に決まる

$$\text{収量} = \text{穂数} \times \text{籾数} \times \text{登熟歩合} \times \text{粒重}$$

10aで10俵とるためには、以下の数字を目標にします。

- 600kg/10a
- 400本/m² × 85粒/1穂
- × 登熟80% × 22g/1000粒



上図は収量構成要素の決定時期の目安を示しており「山」が増える要素「谷」が減る要素です。

図のように、収量構成要素のうちの穂数は既に決まっており、出穂30日前頃から、穂につく籾数が決定します。この時期に栄養不足であったり、水不足になると籾数が低下します。

つまり、穂肥を施用することで、1穂あたりの籾数や、登熟歩合が増加し、さらに実肥を施用することで、千粒重が増加します。

穂肥の施用時期

節間と籾の充実を考える



穂には上図のように節があり、第0節～第5節まであります。出穂40日前から下の節が伸びる時期であり、この時期に栄養や水が多いと節間が伸び、倒伏に繋がります。

- 施肥時期または中干し終了時期が早い
- ・籾数が増加し、収量増加
 - ・下位節間が伸び、倒伏の危険性大
- 施肥時期または中干し終了時期が遅い
- ・籾数や登熟歩合が増えず、収量減
 - ・下位節間が伸びず、倒伏しにくい

特にコシヒカリなど倒伏しやすい品種では、節間伸長時期を考えて施肥する必要があります。逆に、あきたこまちやキヌヒカリ、みえのゆめなどの倒伏しにくい品種では、籾数の確保がより重要です。

[穂肥時期の目安]

品種	穂肥適期	幼穂長
コシヒカリ	出穂18日前	8~15mm
その他品種	出穂20日前	2mm

栽培管理

畦草管理

出穂期まで畦草を伸ばしてしまうと、カメムシが畦で繁殖して、本田へ飛び込むカメムシが多くなります。出穂10日前までに畦草を刈り、出穂後もカメムシを繁殖させないよう丁寧に畦草刈りをしてください。



水管理

幼穂が形成される時期は、稲が生育する上で最も水を必要とする時期です。湛水深水にする必要はありませんが、水を切らしてしまうことのないよう、注意してください。

雑草イネ抜き取り

怪しい株は抜き取りましょう
 <雑草イネの可能性のある稲>

- ①穂の背が高い
- ②芒が長い
- ③風で籾が落ちる
- ④握るだけで籾が落ちる
- ⑤籾の色が黒い
- ⑥玄米に色がついている

一部地域で発生している雑草イネの防除方法として、出穂期の抜き取りは雑草イネ対策で最も重要です。昨年発生した場合は特に注意してください。